

ミズオオバコ	<i>Ottelia alismoides</i> (L.) Pers.	絶滅危惧 I 類	
(環境省:絶滅危惧 II 類)		トチカガミ科	
選定理由	生育地が極度に減少している。	<p>写真(加藤範夫)</p> 	
形態の特徴	茎はほとんど伸びない。葉は根生、沈水性、葉柄があり、葉身は披針形から卵形、あるいは心形、長さ5-30cm、幅1-15cmと変異が大きい。花柄は水面より上に伸びて、先端に花をつける。花は普通両性、萼片は3枚で線形、花弁は3枚で円形、長さ1.5-2.5cm、白色から淡紅色。		
生態的特徴	溜池、水田、水路などに生育する1年草。花期は8-10月。		
分布状況	アジアとオーストラリアに分布し、日本では全国にある。岐阜県では県北に少しと、県南の中部と東部にある。		
減少要因	溜池などの埋め立てと水質の悪化が考えられる。		
保全対策	生育できる溜池などの確保と水質の改善。		
特記事項			
参考文献			

文責:高橋弘